

大念佛

No.103

発行／融通念佛宗
総本山 大念佛寺

大阪市平野区平野上町1-7-26
TEL.06-6791-0026



このQRコードで
大念佛寺にアクセスできます。

大念佛寺 で 検索
<https://www.dainenbutsuji.com/>

題字：融通念佛宗 管長 吉村暲英

お盆によせて

融通念佛宗管長 吉村暲英



一、帰りがく世界と迎える世界

お盆は年に一度、亡き人が懐しいわが家に帰りがく時期で、七月十三日から十五日までの三日間となっている、もとも地域によっては旧暦で行ったり、関西では一カ月遅れの同日に行なうなどの違

いはあっても、お盆は昔から国民的行事であることに変わりない。

この時期、ご先祖さまを迎える準備に余念がない。特に初盆（新盆、若精霊ともいう）の家では、初めて迎えるお盆であるから、帰る人も迎える人も、いつものお盆以上に感慨も一入である。初盆は精霊

に少しでもゆつくりしていただくという思いから、八月七日のお迎えから、地藏盆または八月末日まで供養をつづけるのを通例とした。私はかつて仏教の信仰型体に、帰りがく世界と迎える世界の二つの世界のあることを述べた。まことに盆行事は、この二つの思いが死者と生者の間に、生死を越えた思いで連なっているのである。京都嵯峨野に二尊院という天台宗の名刹がある。また本宗課誦日歿の別願には、遺迎二尊の名がある。二尊とは撥遣の釈迦、来迎の弥陀のことである。すなわち釈迦如来は念仏行者を極楽のお浄土に遣わす働きをしてくださり、阿弥陀如来は念仏行者をしつかり迎えとつてくださるのである。

翻って、私たちは毎朝、勤めに、一日の仕事を終えたと帰宅する。帰る所があるのは幸せなことである。さらに家人が「お帰りのさい」と笑顔で迎えてくれる。このように私たちは毎日、帰りがく世界と迎える世界に支えられ、勇気づけられて暮らしている。

しかし人生の最後、私はどこに帰るのかという大問題が残っている。そんな時、「私は仏さまの世界、極楽のお浄土に帰らせて頂きます」といえる人になりたいものである。それが信仰の世界ということである。

二、冥福を祈るということ

お盆をはじめ、仏教行事とその儀礼には、実に多様なものがある。それらに共通しているものは、霊魂不滅の思想である。葬儀にかかわる一連の行事はもとより施餓鬼、彼岸、年回忌、月々の回向参り（連夜参り）、慰霊祭等、すべてに一貫しているのは霊魂は肉体が亡んだ後も、しっかりと息づいている

ということである。コロナ禍以降、仏事の簡略化が目立ってきたのは誠に嘆かわしい限りである。思い起こせば、昔、年回法要は親類を招き丁寧にお勤めしたものである。その節、年忌の意味、心得など話すことが通例であった。

年忌の第一の意義目的は、亡き人の冥福を祈願することである。冥福とは『あの世での幸せ』のことである。「冥」とは暗いこと、目に見えない世界のことである。世間にはこの目に見えないものは信じられないという人がいるが、人間の目ほど頼りないものはない。

目の前に薄紙一枚だけでも被われると、もう何も見えない。視力に自信があっても暗闇の中では何も見えない。見ることができるのは光明のおかげである。本当に大切なものは目に見えないところにある。まごころ、親切、やさしさなどは目に見えない。神さま、仏さま、ご先祖さまも目には見えないのである。

目に見えないご先祖さまに精一杯の供養を捧げ、その幸せを祈る。これが第一である。

次に第二には、報恩・感謝を捧げ尽くすことである。報恩とは恩に報いることである。親から受けた恩は、いくら尽くしても尽くし足りないものである。せめてその万分の一でもお返ししたいと願うのが報恩である。次に感謝であるが、親に感謝するのは当然であるが仏事における感謝は、身近かな親兄弟にとどまらず、この世のすべての人に対する感謝であり、更に水、空気、土など私を育んでくれている大自然の恵みにも感謝することを忘れてはならないので

ある。年回法要に於ける二つの大切な意義は、お盆を迎える心に通じるのである。目に見えないご先祖さまの精霊に心からの供養を指し向けたものである。

鈴願成就

風鈴に願いをのせて

2025年 8月1日～8月31日
※※ 6:00～17:00
※※ 夜間ライトアップ
8月16日 29日 30日
8月31日 祈願法要開催

期間奉納 2,000円
※※ 風鈴・短冊・木札
※※ 祈願成就 風鈴奉納
※※ 風鈴に願いをのせて

皆さまの願いごとを木札に記し、風鈴に添えて期間中奉納し、祈願させていただきます。

開催日時 八月一日(金)～八月三十日(日)

※観賞は毎日六時～十七時

夜間ライトアップ

八月十六日(土)

午後八時まで

二十九日(金)、三十日(土)

午後九時まで

八月三十一日(日)

午後二時より

場所 大念佛寺 山門前

料金 二千元

※祈禱料を含みます。

※祈禱場所 白雲閣 売店

※風鈴は八月三十一日まで期間奉納させていただきますが、九月

一日以降、お持ち帰りが可能です。

※数に限りがありますので、先着

順となります。

終戦八十年と大念佛寺

平野 松井寺老院 瀧野演澄師
(八十三歳) に取材させていただ
きました。

私は、終戦の三年前の昭和十七
年二月に大阪市天王寺区(当時松
井寺が在した地)で生まれたが、
配属将校としての顔も持つ住職で
ある父はその年の三月に徴兵され
ました。

その後戦況が悪化し、昭和二十
年三月の大阪大空襲によって本堂・
庫裏が全焼。家族は地域の人と大
阪市立美術館へ避難しましたが、
しばらくして縁故疎開として現在
の奈良県天理市周辺の寺院のお堂
に身を寄せながら二年半ほど生活
しました。

その後、お寺の役僧方が戦地か
ら復員されましたが、出兵した父
親から帰りの知らせがないまま、
昭和二十二年に大念佛寺の毘沙門
堂で天王寺周辺の焼けだされた四
ヶ寺とともに疎開生活がはじまり
ました。

その翌二十三年に父が無事復員し、

その時、五歳ではじめて父と対面

しました。復員がこの時期になっ
たのには、北支那方面で終戦を迎
えてから部下の引揚げを見送り、
戦後処理をする大將などの世話係
を大尉として勤めていたことで復
員が遅くなりました。終戦のポツ
ダム進級で一階級上がり、「ポツ
ダム少佐」と呼ばれることもあっ
たそうです。

その後、一年ほど大念佛寺内
の疎開生活を過ごしてから自坊で
かろうじて焼け残った蔵を本堂兼
住居として改装し、昭和二十四
年に避難生活から離れることがで
きました。

演澄師には幼少期の記憶をたどり、
後に知ることになった事柄を中心
にお話をうかがいましたが、その時々
のご自身や周囲の人々がどのよう
な思いで戦時を乗り越えたのか推
察すると、現代を無事に生きること
ができることを心から感謝いたし
ます。

編集委員



天台真盛宗伊勢教区と融通念佛宗讀師との交流実現

(大原魚山聲明家宗淵上人『大源聲明集』策定二〇〇年記念)

去る五月十五日、三重県津市の
天台真盛宗別格本山西来寺において、
真盛宗伊勢教区僧侶の方々と本宗
讀師一同による交流会が開催され、
「真阿宗淵上人追善法要」を厳修
いたしました。今年は、本山第五
十一世、真海上人が『大源聲明集』
の編纂を宗淵上人に依頼なされた、
一八二五年から数えて、ちょうど
二百年という節目の年になります。

このような記念すべき年に貴重
な交流の場をいただけたこと、ま
さに仏縁とも言えるべき機会に感謝
する次第です。

持つ両宗ですが、長谷川師は良忍
上人以来の天台聲明継承の歴史
に見識が豊富で、とりわけ『融通
如法念仏』に強い関心を持たれて
いるようでした。この関心に応え
る形で、本宗の法要では聲明曲を
多くして『融通如法念仏』で修め
る内容でした。研究会では、吉村
猥下より『礼讃』厳修の意味と意
義に加え、『融通如法念仏』誕生
と発展の話にも及びました。なに
より本宗は讀師という聲明専門集
団でしたので、統一性があり旋律
型もしっかりしていたので、伊勢
教区の若い僧侶の方々から聲明の
稽古や、聲明実唱について種々の
質問がありました。

西来寺とは宗淵上人を介して聲明
のつながりがあり、教義において
も「念仏」実践重視の天台教学系
両宗であります。今後とも交流を
繋げて研究鑽の発展を期したい
ところです。貴重な機会をいただき、
関係者様方にはこの場を借りて、
重ねて感謝申し上げます。

融通念佛宗讀師会

*『融通聲明集』のもとになる『大
源聲明集』を策定し、融通念佛宗
第五十一世眞海法主に献上した
京都大原の聲明家



法要後には聲明に関する研究会
が開かれ、日頃の疑問点や聲明の
修練方法など、様々な意
見を交わし、お互いに感
謝を伝え合いました。今
回の交流会のきっかけは
伊勢教区支部長 長谷川師
の本宗への呼びかけでした。
同じ天台宗系統の歴史を

両宗は天台宗系の歴史を共有し
ています。真盛上人は、応仁の乱
の世に荒廃する戒律回復と源信傾
倒の念仏興隆を目指す「戒・称二
門」の法門を打ち立てられ、一方、
本宗の元祖良忍上人は平安時代後
期の末法の世に、一即一切速疾往
生自他融通的口称念仏「融通念仏」
を感じし勧進されました。真盛宗



THE GHOST MUSEUM

毎年好評の「THE GHOST
MUSEUM」。今年は昨年の展
示に加えて公演の演者さんやプ
ログラムを増やして皆様をお待
ちしています。



開催日時

八月二十九日(金)
八月三十日(土)
八月三十一日(日)

午後三時~午後九時
午前十時~午後九時
午前十時~午後四時

場所

延喜殿 一階

料金

幽霊寄席 千円

公演(講談・かたりべ・琵琶弾き語り)を各日二回公演
鑑賞することができます。
(各回先着七十名)



旭堂 みなみ



満茶乃



中沢 龍心

プレミア公演

今回のイベントアンバサダー「み
ほとけ」さんによるプレミア公演
を行います。

日時

八月三十日(土)二回公演

●午後一時~
●午後三時二十分~



みほとけ

★満茶乃とのコラボトークショー
★「みほとけ、大念佛寺に聞く」
プレミア公演2本立て

特別公演

日本妖怪研究所所長「亀井澄夫」さんが日本三
大美女幽霊や日本各地に残る幽霊談を楽しく解
説していただきます。

日時

八月三十一日(日)

午後一時~



亀井 澄夫

※詳しいタイムテーブルは大念佛寺ホームページ
をご覧ください。

寺マルシェ 同時開催



融通念仏ゆかりの地

鞍馬弘教 総本山 鞍馬寺

京都は出町柳で叡山電鉄に乗り、美しい樹々の間を抜けて行きますと、その先には鞍馬山があり、鞍馬寺はそこにあります。

鞍馬寺のご本尊は毘沙門天王と千手観世音菩薩および護法魔王尊の三身を一体とし、尊天とお呼びするそうです。いずれも六十年に一度御開帳される秘仏です。本尊毘沙門天は右手に鉾、左手を軽く腰にあてたお姿といえます。

また平安時代の末には、本尊とは別に、桓武天皇の意をくんで右手に鉾、左手を眉の上にかざして鞍馬山から平安京を見守る像容がつくられました。



国宝のこの像は芸術上の名品としても有名です。

毘沙門天王は、融通念仏の歴史において非常に重要な神仏で、「鞍馬の毘沙門さん」と呼ばれ親しまれています。毘沙門天は四天王の一尊でもあり、「多聞天王」とも呼ばれます。融通護法多聞天王として、融通念佛宗での日課勤行でも供養されています。

永久五年（一一一七）五月十五日、元祖良忍上人は阿弥陀如来さまから融通念仏を授けられます。そして、良忍上人は融通念仏を民衆に勧進まわられるのです。

ある朝のこと、青衣を着た一人の青年僧が京都大原の来迎院を訪

れました。青衣の青年は結縁者の名を記す「名帳」に名前を記すとすぐにお姿を隠しました。良忍上人が不思議に思い、帳面を確認しますと、その青年は「鞍馬寺の毘沙門天王が念仏結縁の衆生を守護するために来た」と書かれていました。

その後、天治二年（一一二五）四月四日、良忍上人は鞍馬寺を訪ね参籠されます。徹夜で念仏をお唱えしてまいりますと寅の刻のこと、毘沙門天が幻のごとく現れ、「天上来に赴き神々に念仏を勧め日課百遍の誓いを取り付けてきた」と、神々のお名前を連ねた「神名帳」を良忍上人にお授けになったといえます。

つまり鞍馬寺の毘沙門天は、日本中の神々にお会いし融通念仏を勧められた。そして神々は融通念仏の行者として、日々のお念仏百遍の誓いとお名前を帳面に記されたと言います。

神名帳には『融通念佛縁起絵巻』（清涼寺本、享和版本）によると、

梵天王部類諸天 百遍
帝釈天王部類諸天 百遍
持國天王部類諸天 百遍
增長天王部類諸天 百遍
：中略

賀茂下部類眷属 百遍
賀茂上部類眷属 百遍
伊勢内宮部類眷属 百遍
伊勢外宮部類眷属 百遍
宇佐八幡部類眷属 百遍
日吉七社部類眷属 百遍
：以下略

と、日本全国のありとあらゆる神々のお名前が記されています。この神々に対して、鞍馬寺の毘沙

門天が融通念仏を広められたのです。ですから神々もまた融通念仏の行者です。『融通念佛縁起絵巻』には「全国の神社にお参りした際も一般的な拝礼にとらわれず神々の本意とされる念仏をほがらかにお唱えすることだ」とも書かれています。

鞍馬寺では「融通念佛百萬遍會」が毎月七日に転法輪堂にて行われています。さらに四月四日には数珠繰りも行われます。この時の式次第は、「戒香定香解脫香」と香偈、礼文から始まり妙偈、お念仏と続き、融通念佛宗の勤行式と多く共通するものです。

毘沙門天王から授かった神名帳本体は大念佛寺に伝わりとされていますが、鞍馬寺ではその縮小版を刷り、お守りとしてご参拝の方に有償で広く授与しておられます。

お話を聞かせていただいた学芸員の曾根さんが「自然豊かなのが一番のご馳走だと思えますよ」とお話しされていたお姿が印象的でした。いかに鞍馬の自然を愛しておられるのが伝わります。

天狗やパワースポットでも有名な鞍馬寺ですが、一年を通して色々な姿を見せ、我々に世の中のありのままを教えてくださいます。自然に関する博物館もあります。ぜひ季節問わず何度でも、鞍馬の毘沙門さんをお参りし、お念仏をお唱え下さい。

本山の行事

お盆が過ぎ暦も秋に入ると、暑い日が続くといえ、心なしか景色にも落ち着きが見えるようになり

ます。青々と茂っていた木々の葉にも少しずつ色合いに陰りが見え始め、山々も秋の装いの支度を始める頃、いよいよ総本山も年末に向けて動き始めます。一年を通してみれば、総本山の行事はその殆どが前半に集約されていると言ってもよいでしょう。

元祖忌、再興忌、万部法要等、主だった法要は前半で終わり、中祖忌ですら七月の初めにあたり

ます。一般には、秋から年末にかけて何も行事が無いように思われていますが、九月十六日には百万遍数珠繰り、十月十五日は亀鉦祭り、十一月十四日には十夜法要、そして十二月一日には後小松天皇忌、また九月の上旬から十二月の半ばまで大和御回在で御本尊が奈良の各地を回っておられます。

今回は、檀信徒の皆様にあまり馴染みの無い、亀鉦祭りと後小松天皇忌についてご紹介させていただきます。



「亀鉦祭り」

このお話は檀信徒の皆様なら一度は耳にされたことがあると思います。中祖法明上人にまつわるエピソードです。

元祖良忍上人が鳥羽上皇から下賜された「鏡鉦」を受け継がれた中祖法明上人が、加古の教信寺（兵庫県）に船で向かわれる途中、今の阪神鳴尾の沖合にて大嵐に遭遇し、海神を鎮めるために泣く泣く大切な宝物である鏡鉦を海中に沈めたところ、突如として嵐が止み無事に教信寺にたどり着くことができました。その帰り、同じく船にて大阪まで戻って来る途中、海上遠くの方から大きな亀が船に近寄って来るではありませんか。よくよく見ると、大亀はその頭上に法明上人が海に投げ入れたはずの鏡鉦を載せていたのです。それは海神が鉦を返すために大亀を遣いよこしたものでした。そして鏡鉦を返した後も大亀は法明上人の船に名残惜しそうに付いてくるのです。これを見た法明上人はこの大亀を「鳴尾の霊亀」として融通念仏日課勧進帳に名を連ねたところ、大亀はようやく納得したのか海の彼方へ帰っていったといえます。

この出来事以来、鏡鉦は「亀鉦」と呼ばれるようになり、我が宗の宝物となりました。

そして海神の使いとして現れたこの大亀を供養するために行われ

さて、今回の「令和の本堂大改修」は、この後に続く「元祖聖應大師良忍上人九百回御遠忌法要」に向けての事業の一つとして行われました。来る令和十三年（六年後）には、完成された本堂でこの御遠忌法要が盛大に執り行われます。その為に、私たちはこれから様々な企画を立ち上げ、御遠忌法要に向けての準備をしていかなければ

るのが「亀鉦祭り」なのです。十月十五日は朝十時頃からお勤めをし、その中で融通教会の方々による「亀鉦由来和讃」の奉納が行われます。ぜひ一度お参りください。

「後小松天皇忌」

融通念佛宗には「後小松天皇御宸翰融通念仏勧進帳」という国の重要文化財が伝わっています。これは大念佛寺第十四世道音上人の請願に応じて後小松天皇が宸筆を染められたものであります。

その序文には、「敬白 貴賤男女をすすめて此の念仏の名帳に入り奉りて、ともに彼の国に往生せしめむと請ふ勧進帳」と書かれ、貴賤を問わず、また今では当たり前前の男女の差別なく、どのような人であっても「融通念仏 南無阿弥陀仏」と称えれば極楽に往生ができること、後小松天皇自らが融通念仏を世の人々に勧められたのです。

「治天の君」として、後小松天皇はまた時の室町幕府の足利家と渡り合いながら、天皇家の正統を守り抜こうと努力されます。そして永享五年（一四三三）に五七歳にて崩御なされるまで、波乱の人生を送られたのであります。総本山大念佛寺ではその後、後小松天皇のご恩に報いるため、その御霊を本堂の北にある霊明殿にお祀りし、毎年十二月一日午前十一時から御回向を行っております。※一休禪師の父

篤志寄付のお願い

立秋が近いといえ、太陽の光が殊更厳しく照り付けるこの時期、本山では本堂改修工事がいよいよ終盤に差し掛かり、外観はもう完成したかのように見えます。しかし、その中で内装工事が静々と勧められていることは外からで

は決して窺い知ることはできないでしょう。外観以上に気を遣わなければならぬ仏具の修復は、その道専門の職人でしか不可能なことです。来年五月の落慶式を目指し、今本山では色々な企画の実現に向けて動いています。

なりません。まだまだ沢山の方々のご協力が必要なのです。いま本山では、引き続き皆様からの篤志寄付をお願いしております。本堂の完成とそれに続く元祖大師九百回御遠忌法要に向けて、皆さまのより一層のご理解とご協力を賜りますよう、ここに改めてお願い申し上げます。

大念佛寺

Instagram

フォローしてね





また、享和二年（一八〇二）倉王寺・薬師寺・浄土寺と合祀（詳細不明）されました。浄土寺本尊の地藏菩薩立像（国指定重要文化

財）は松材寄木造の彩色像で、金による各種文様が見事な作です。右手には錫杖を左手には宝珠を持つた鎌倉時代通例のもので、台座裏には「康元元年（一二五六）四月二日造立畢大仏師刑部法橋快成」の墨書銘があります。同じ年に愛染明王坐像（奈良国立博物館）も造像されています。

この地藏菩薩像はいつの頃から春覺寺に移座されたようです。

主な行事
八月二十三日 施餓鬼法要
十一月十七日 十夜会法要

末寺巡礼

東里山 春覺寺

宇陀市室生下笠間



室生下笠間集落の山麓に建つ春覺寺には、石段を登りつめた境内のあちらこちらに石塔各部の残欠が目につきます。室町時代から江戸初期頃のものが多いです。



本山の御朱印の紹介

昨今は朱印ブームと言ってもよいくらい沢山の方が御朱印を求めて本山にお参りくださいます。

いま本山では八つの霊場、九種類の御朱印があり、お問い合わせも多いことから以下の通りご紹介させていただきます。

- 神仏霊場会 三百円
 - おおさか十三仏 五百円
 - なにわ七幸 五百円
 - 河内西国霊場 五百円
 - 西国霊場 七〇〇円
 - 本山 三百円
 - 本山特別御朱印 五百円
 - 大坂メトロ花御朱印 八百円
- （令和七年十一月三十日まで）

小 径

近頃難波や梅田などのまちなかに買い物や食事に出かけると気付くことが、外国人観光客の多さです。京都にもなるともつとすごいことになっていると聞きます。

そんな方々が興味をもっておられるのは日本独特の文化だそうで、美しい自然や歴史的な街並みから始まって、交通機関の正確さやコンビニの便利さ、治安の良さ、アニメやゲームなどの文化、百円均一の品々、食事のおいしさに大そう驚かれるそうです。

その中で「はて？」と思うのは、「それは元々あなたの国が発祥ですよ？」と言いたいことがよくあります。

たとえばラーメンやカレー・牛肉・ウィスキーなどの飲食物や、自動車・バイク・カメラ・時計などの工業製品。ジーンズなんかはアメリカの人が自国のヴィンテージを復刻した日本製のレプリカジーンズをわ

簡単に一日で満願できるものもあれば、しっかりと腰を据えて回らなければならぬものと様々ですが、いずれにしてもスタンプラリーのような軽々しい気持ちではなく、深い信仰心に基づき、しっかりと目的（願い）を持って敬虔な気持ちで参拝されますようにお願い致します。



ざわざ買いに来られるそうです。外来の物を受入れ飽くなき探究心で洗練されたものが世界の人々から高い評価をいただくことに日本人として素直に嬉しく、誇りに思います。

反面、最近日本が失いつつあるのではないかと考えることがあります。テレビやネットによる誹謗中傷や暴力、事故映像の垂れ流し「〇〇離れ」に代表されるような「時代の流れだし、みんなやってるし・・・」と暗に集団心理を煽ることによって人と人との関係性を遠ざけて、物質主義の社会が急速に進みすぎているように感じます。

「終戦八十年」を契機に自分の家や地域、ひいては日本の国を護るためにも「心の豊かさ」が何よりも大事であり、これこそ世界の人からお手本とされるべきものであると思います。

正教

年中行事ご案内

盂蘭盆 法界大施餓鬼（瑞祥閣）
○八月十六日（土） 午後六時

万灯会（境内）
○八月十六日（土） 午後七時

大和御回在御出光（瑞祥閣）
○九月九日（火） 午前八時

融通念仏会（瑞祥閣）
○九月十六日（火） 午前十一時

百万遍会（大数珠繰り）（瑞祥閣）
○十月十五日（水） 午前十一時

龜鉦まつり（瑞祥閣）
○十月十五日（水） 午前十一時

十夜会（瑞祥閣）
○十一月十四日（金） 午後一時

後小松天皇忌（蓋明殿）
○十一月一日（月） 午前十一時

大和御回在御帰院（瑞祥閣）
○十二月十七日（水）

除夜法要（本堂）
○十二月三十一日（水） 午後十二時

定例布教（延喜殿三階）
○毎月二十六日 午後二時三十分

行事予定は変更する場合があります。

話せば心も軽くなる

大阪仏教テレホン相談室
仏事相談、信仰相談、その他あらゆる人生相談を十宗派の僧侶がお受けします。
月曜日～金曜日（八月休）
でんわ 〇六（六九四九）九〇一〇 午後二時～五時迄

鈴願成就

8/1 金日（日） 31

鈴願をのせて

8/1 金日（日） 31

幽霊博物館 THE GHOST MUSEUM

8/29 金日（土） 30 31 3日間開催

大念佛寺

融通念仏宗 総本山

管法長	吉村 晴英
宗務総長	田中 瑞修
教学部長	沢田 善秀
庶務部長	好野 良博
財務部長	佐々木智祥

★写経のご案内
毎月十五日、午前九時三十分より午後三時まで、延喜殿三階にて写経（一巻千円）を行っております。

●お問い合わせ
大念佛寺宗務所
〇六（六九四九）〇二六